

令和5年度 県独自調査による集計結果について

いじめ・不登校総合対策センター

調査年度：令和5年度

調査対象：鳥取県公立学校（※高等学校、特別支援学校は「いじめ」のみ）

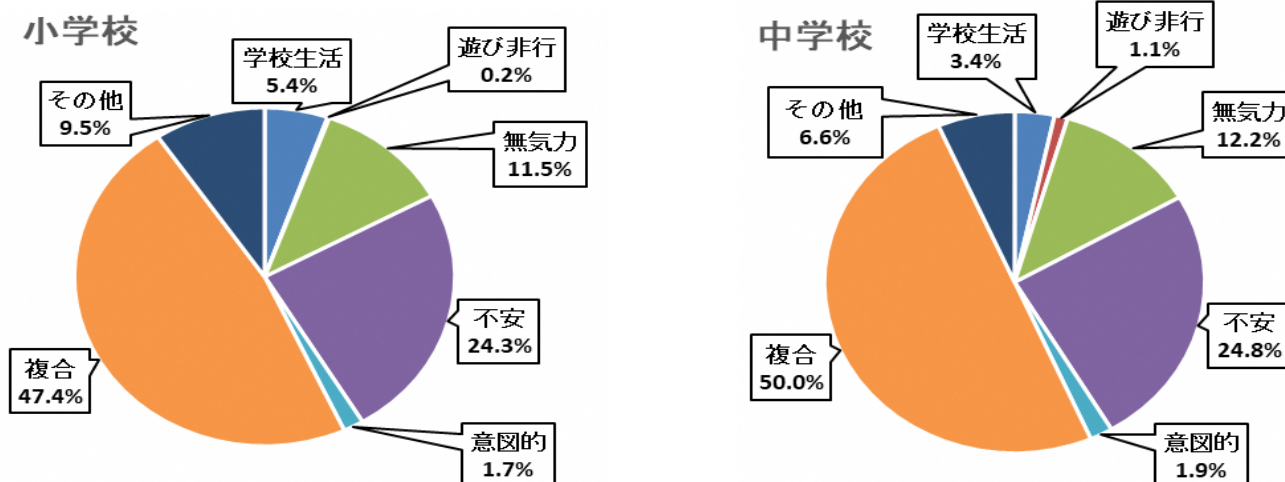
1 令和5年度不登校児童生徒の状況について（公立のみ）

(1) 学年別不登校児童生徒数の推移（県独自調査より）

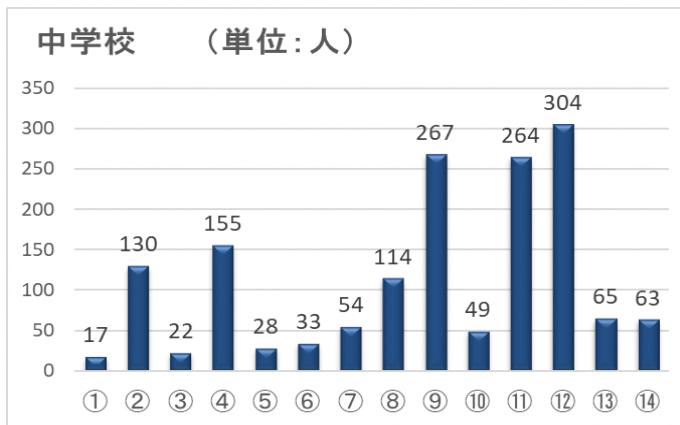
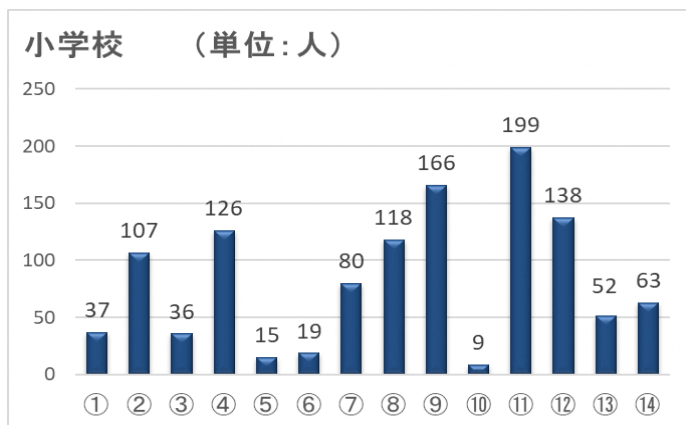
（単位：人）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小合計	中1	中2	中3	中合計
R3	16	37	35	73	108	131	400	175	238	218	631
R4	25	40	57	85	121	164	492	252	282	308	842
R5	34	72	85	102	143	197	633	280	387	309	976

(2) 不登校が継続している(していた)理由（県独自調査より）



(3) 不登校児童生徒について把握した事実について <複数回答可>（県独自調査より）

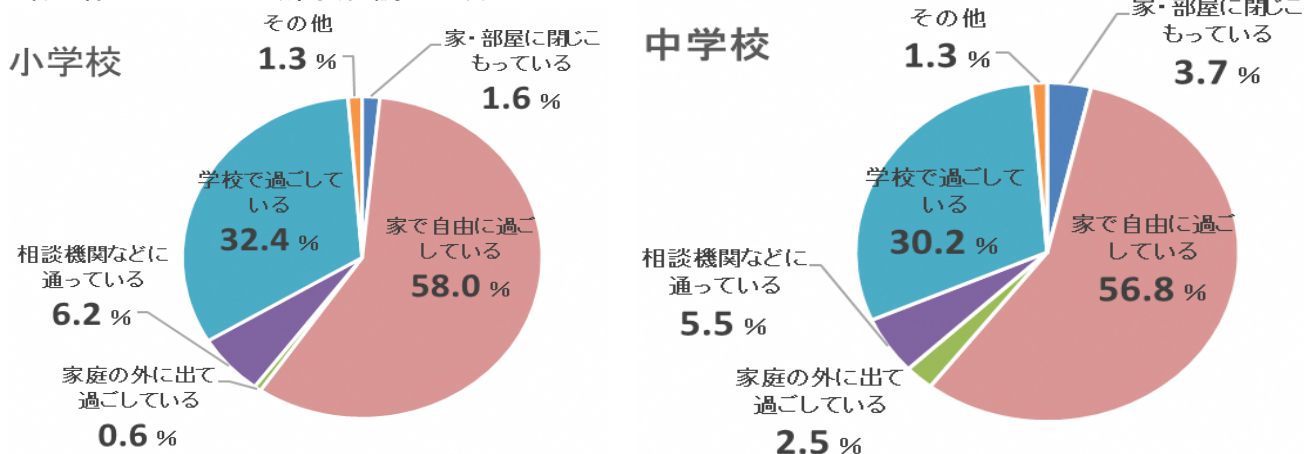


(注) 上のグラフの丸付き数字の内容

- ① いじめ被害の情報や相談があった
- ② いじめを除く友人関係をめぐる相談があった
- ③ 教職員との関係をめぐる問題の情報や相談があった
- ④ 学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた
- ⑤ 学校のきまり等に関する相談があった
- ⑥ 転編入学、進級時の不適応による相談があった
- ⑦ 家庭生活の変化に関する情報や相談があった
- ⑧ 親子の関わり方に関する問題の情報や相談があった
- ⑨ 生活リズムの不調に関する相談があった
- ⑩ あそび、非行に関する情報や相談があった
- ⑪ 学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった
- ⑫ 不安・抑うつに関する相談があった
- ⑬ 障がい(疑いを含む)に起因する特別な教育的支援の求めや相談があった
- ⑭ 個別の配慮(⑬以外)についての求めや相談があった

・小学校・中学校ともに、「学校に対してやる気が出ない等の相談があった」、「不安・抑うつに関する相談があった」の項目が多いことから、児童生徒が不安等を感じたりする要因、背景を見取り、児童生徒理解に基づいた早期支援を行う必要がある。

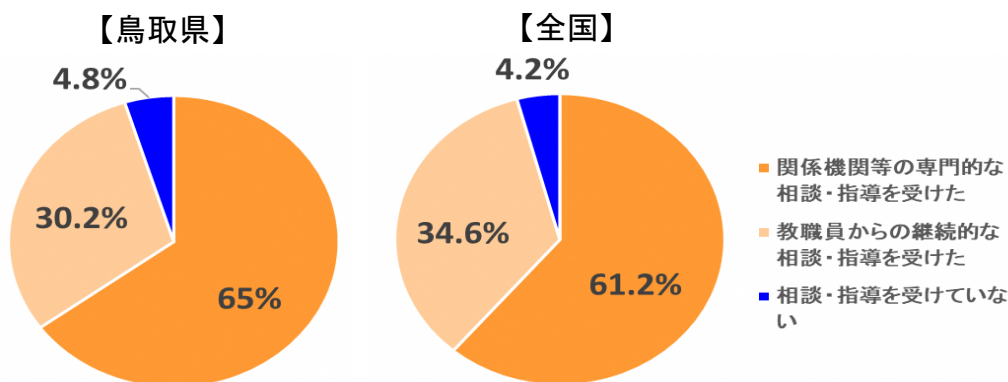
(4)生活の様子について（県独自調査より）



・小学校、中学校ともに「学校で過ごしている」の割合が、前年度と比べて大きく増加している。

【前年度比 小学校:10.4%増加 中学校:6.6%増加】

(5)相談・指導等を受けた学校内外の機関等について（県独自調査より）

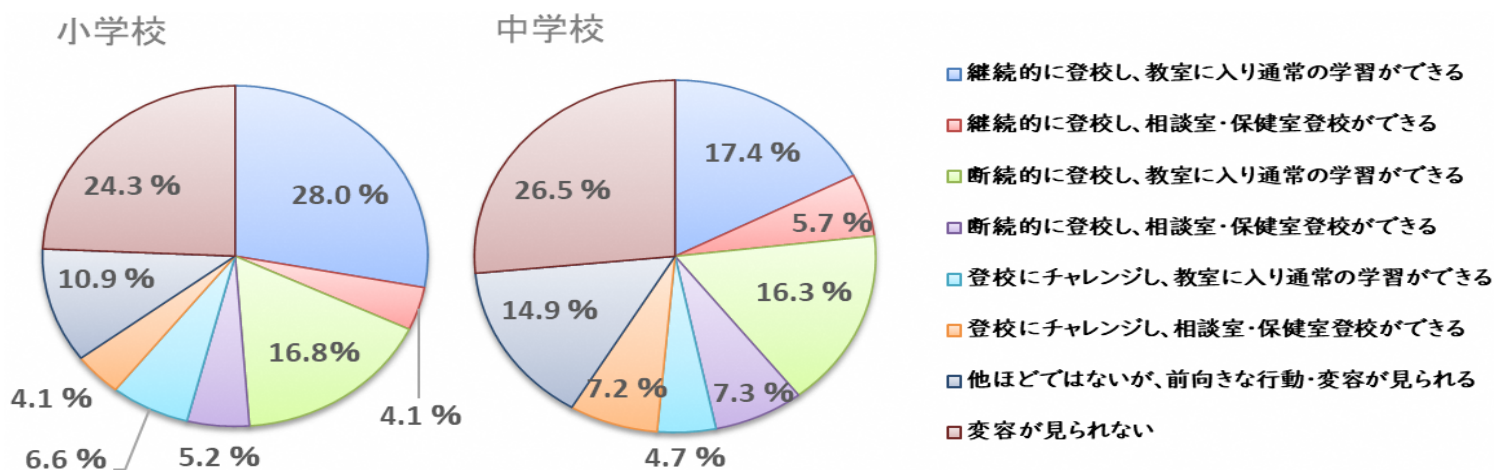


※1 「関係機関等の専門的な相談・指導」は、教育支援センター、児童相談所、病院、養護教諭、スクールカウンセラー等の相談員等の相談・指導を指している。

※2 「教職員からの継続的な相談・指導」は、「関係機関等の専門的な相談・指導」を受けていない者のうち、教職員により週に1回程度以上、家庭訪問や電話等により当該児童生徒本人への相談や指導等を行うことを指している。

・「関係機関等の専門的な相談・指導を受けた」の割合が全国と比べて、3.8%高い。

(6)不登校児童生徒の状況の変容について（県独自調査より）



・昨年度に引き続き、小学校、中学校ともに「継続的に登校し、教室に入り通常の学習ができる」の割合が増加している。【小学校:8.1%増加 中学校:1.9%増加】

・小学校、中学校ともに『登校』に関する6項目の数値の合計が昨年度と比べて増加【小学校:5.8%増加 中学校:3.1%増加】していることから、不登校児童生徒の登校に対する意欲的な行動や変容が見られることが分かる。

2 令和5年度いじめの状況について（公立のみ）

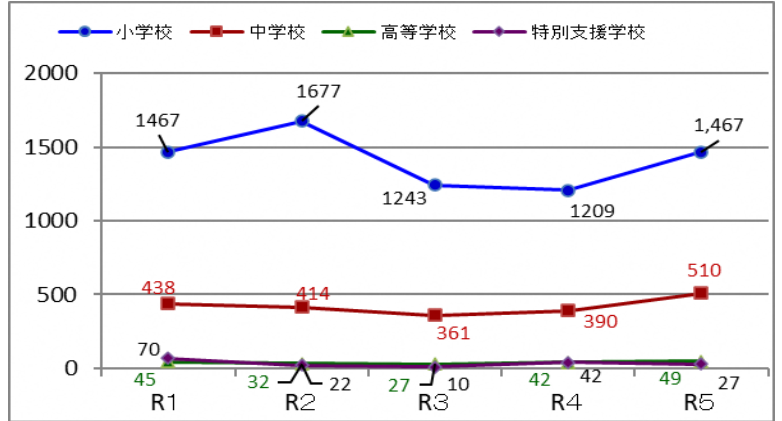
（1）いじめの認知

- ・特別支援学校を除くすべての校種で前年度と比べ認知件数が増加した。
 - ・学年別でみると、小学4年と中学1年の学年集団で認知件数が大幅に増加した。
- ①小学4年【R5：358件、R4(小学3年時)218件 ⇒ 140件増加】
- ②中学1年【R5：290件、R4(小学6年時)160件 ⇒ 130件増加】

【学校におけるいじめの認知状況】（県独自調査より）

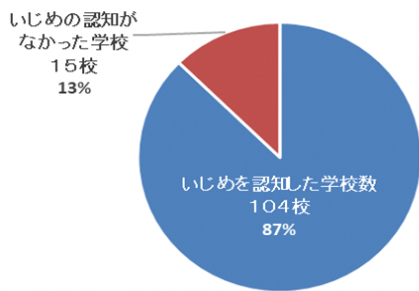
いじめの認知件数の推移（R1-R5）【単位：件】

鳥取県(公立)	R1	R2	R3	R4	R5
小学校	1467	1677	1243	1209	1,467
中学校	438	414	361	390	510
高等学校	45	32	27	42	49
特別支援学校	70	22	10	42	27
計	2020	2145	1641	1683	2,053
認知件数/千人	22.6	39.5	30.6	31.8	39.5

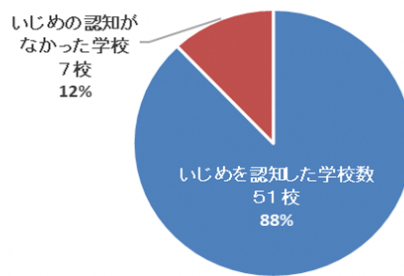


【いじめの認知の割合】（県独自調査より）

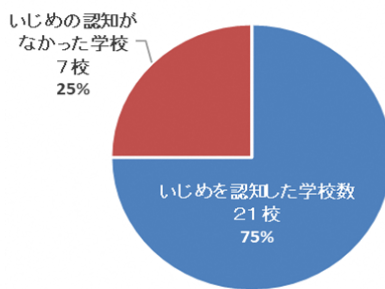
R5 いじめの認知の割合(公立小学校)



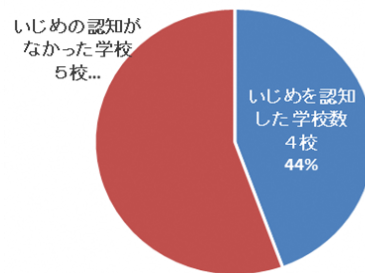
R5 いじめの認知の割合(公立中学校)



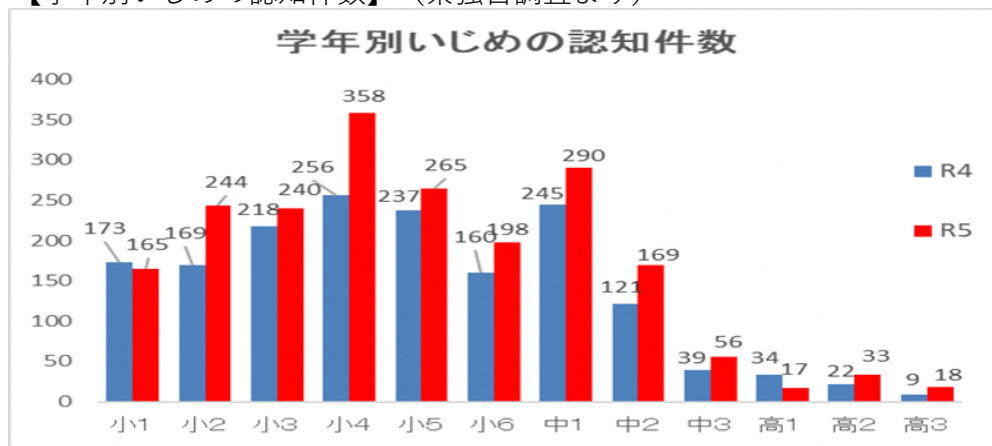
R5 いじめの認知の割合(公立高等学校)



R5 いじめの認知の割合(公立特別支援学校)



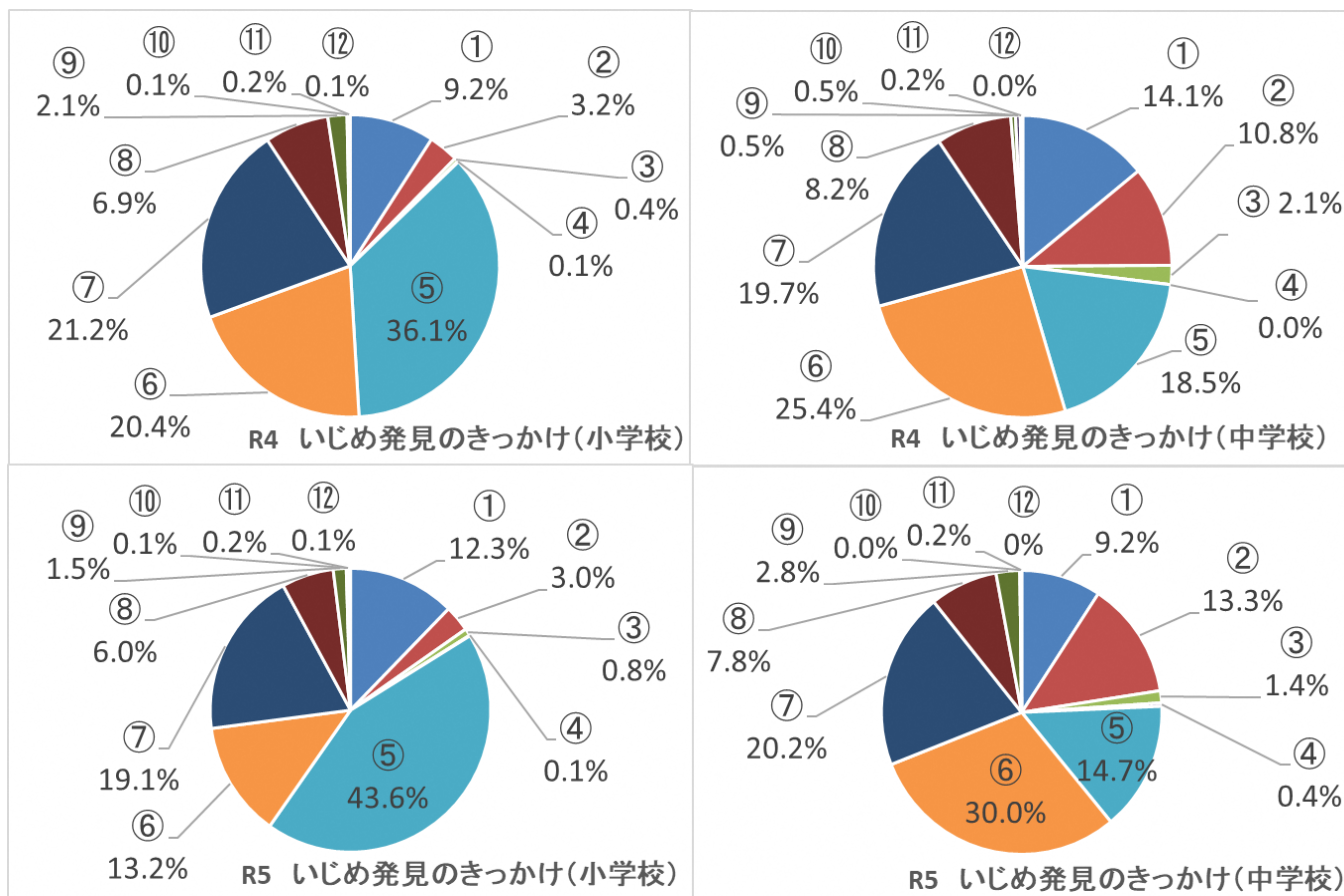
【学年別いじめの認知件数】（県独自調査より）



※特別支援学校の
児童生徒数を含む

(2) いじめ発見のきっかけ（県独自調査より）

- ・小学校では、「アンケート調査などの取組により発見した」の割合が大幅に増加した。
- ・中学校では、昨年度に引き続き「本人の訴えによる」の割合が増加した。



【円グラフにおける数字の内容】

- ① 学級担任が発見した
- ② 学級担任以外の教職員が発見した
- ③ 養護教諭が発見した
- ④ スクールカウンセラー等の相談員が発見した
- ⑤ アンケート調査などの取組により発見した
- ⑥ 本人からの訴え
- ⑦ 当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え
- ⑧ 児童生徒（本人を除く）からの情報
- ⑨ 保護者（本人の保護者を除く）からの情報
- ⑩ 地域の住民からの情報
- ⑪ 学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報
- ⑫ その他（匿名による投書など）

(3) いじめ発見の現在の状況（県独自調査より）

※「現在」とは年度末を示す

